ゲンロク 2020年12月号（毎月26日発売）
10月26日発売 No.418 第35巻第12号

Car Entertainment Magazine

GENROQ

［ゲンロク］

2020 DEC No.418 12
定価 998Yen

Ferrari's new era

フェラーリの誘惑

限定モデル、モンツァSP2日本初試乗
最新オープン、812GTSの味わい
今、振り返るエンツォ・フェラーリ

新型ポルシェ911ターボSカブリオレ
718ケイマン＆ボクスターGTS4.0

［IMPRESSION］マクラーレン765LT／ブガッティ・ディーヴォ
ロールス・ロイス／ベントレー／ランボルギーニ／BMW特選ショップ

REPORT●石川大輔(ISHIKAWA Daisuke)　PHOTO●白谷　賢(SHIRATANI Ken)

Hyper Forged × Garage Bianco HF-DiC for Mercedes-AMG C 63 S Coupé

計算尽くしのシンプルメイク
その足元に漲る躍動感

メルセデス・ベンツCクラスの小振りともいえるボディに、最高出力500psオーバーを絞り出すV型8気筒・4ℓのツインターボユニットを積み込んだAMG C63Sクーペ。ひとたびアクセルを踏み込めば、シートに背中を押し付けられるような怒濤の加速が味わえる。

それでいて見た目は、巷に溢れているスタンダードなCクラスとさほど大きくは変わらない。バンパーや微妙な膨らみが与えられたフェンダー、4本出しのエキゾーストなど、外観上の相違点は数えるほどだ。

そんな“羊の皮を被った狼”的な立ち位置なだけに、エクステリアをギラギラと飾り立てるようなカスタマイズはあまり似合わない。C63Sという稀有なキャラクターを尊重し、ローダウンとインチアップだけでシンプルにまとめあげてきたのは、京都府に拠点を構えるガレージビアンコである。

一言で言えばライトチューンだ。しかしクルマ全体からただ者ならぬオーラが溢れているのは何故なのか？　それは純白のボディに収められたハイパーフォージドホイールのマッチングが絶妙であるからにほかならない。ホイール銘柄に加え、カラーやサイズについても、計算尽くしのコーディネートが行われているのだ。

AMG63Sの足元を飾るに相応しいモデルとして選んだのは、ハイパーフォージドの意欲作「HF-DiC」である。アンシンメトリー（左右非対称）なデザインが特徴的なこのモデルは、ホイールセンターから捻りを加えるかのごとくリムエンドまでスポークが伸びる。ホイールセンターを大きく削り込むことでシャープな印象を与えると同時にロングスポークも強調。躍動感が漲る唯一無二のフォルムを演出している。

当然ながら性能面も申し分ない。デザインから製造まで一貫して日本国内で行われる、最高品質の削り出し鍛造ホイールは、比類なき強靭さと軽さを併せ持つ。応力分散も配慮した10スポークデザインは、見た目の美しさのみならず、圧倒的に高性能であることを示している。

さらに質感の高さも特筆すべきポイント。鍛造アルマイトの素材感を活かす独自の表面処理を施すことで、ほかにはないエッジ感を演出。優れた機能部品でありながら、まるで芸術品のような美しいフォルムを楽しませてくれる。もちろん、ハイパーフォージドならでは多彩なフィニッシュパターンやサイズセレクトができることも見所のひとつで、オーナーの好みで選んだというホイールカラーは、ブラッシュドライトブロンズアナライズディスクに、ブロンズリムという組み合わせ。さらにクラシカルピアスを採用することで、圧倒的な存在感を醸し出すことにも成功している。

「フェンダーの膨らみが大きいクーペのリヤフェンダーに、コンケイブの効いた21インチを履いたことが、迫力に繋がっています。シンプルな色合いなので、真っ赤な純正キャリパーもよく映えますね」とガレージビアンコの担当者は語る。

サイズはフロントが9・5J×20＋13、リヤが11J×20＋50。これにフロント255／30ZR20、リヤ295／35ZR31のコンチネンタル・スポーツコンタクト6を組み合わせ。当然、サスペンションまわりの強化も抜かりなく行っており、KWのハイトアジャスタブルスプリングキットを組み込み、フロント30㎜、リヤ35㎜ほどローダウンしている。純正の電子制御を活かしつつも、ハイパフォーマンスグレードに相応しいスポーティな走りと美しいフォルムを手に入れているのだ。

まさに計算尽くしの妙技。シンプルメイクに徹しながら並々ならぬ存在感を手に入れたAMG C63Sクーペは、それがデフォルトであるかのような抜群のまとまりをみせる。

この素材のよさを活かすチューナーの手腕がいかんなく発揮された1台を目の当たりにし、カスタマイズにおけるホイール選びの重要性を、改めて再認識させられた。

組身のスポークサイドには切削加工が入る。加えてスポークエンドが浮いて見えるような造形もハイパーフォージドらしい個性のひとつ。最高レベルの鍛造、切削技術の採用によりそうした複雑なフォルムを達成している。

PRICE LIST

19インチ(7.5J～14.0J)	13万6000円～18万9000円
20インチ(7.5J～15.0J)	14万7000円～20万6000円
21インチ(7.5J～14.0J)	17万7000円～24万8000円
22インチ(8.5J～14.0J)	22万4000円～34万9000円

※価格は税別。SemiConcave＆DeepConcaveの設定あり。

大胆なえぐりを入れたホイールセンターが大径感を強調。軽量化にも貢献している。ディスクやリムのカラーについても多彩なバリエーションが用意されており、自分だけの1本にアレンジできるのも大きな魅力だ。

アンシンメトリーな10スポークも削り出し鍛造だからこそ実現できたデザイン。今にでも走り出しそうな躍動感のあるフォルムに仕上がっているのが印象的。サイズラインナップは19インチから22インチを用意する。

問い合わせ／ハイパーフォージド　☎072-256-6664　http://www.hyperforgedwheels.com
車両協力／Garage Bianco　☎075-748-8127　http://www.garagebianco.com